

小松市大日川上流でメスアカミドリシジミ幼を採集

吉村久貴・野中勝

1983年5月8日、筆者らは小松市における *Zephyrus* の新産地を求めて、メスアカミドリシジミを中心とした分布調査を行った。

小松市には、大倉岳(651)、鷹落山(494)、勸山(504)など、*Zephyrus* の新産地として有望な山が点在するが、福井県境の大日山(1369)に的を絞り、尾小屋から五百峠を越えて、大日川沿いを逆行して最上流へと伺った。

新保出より大日山の登山道となるが、下界と打って変わって、季節が遅れているのが、肌で感じられた。

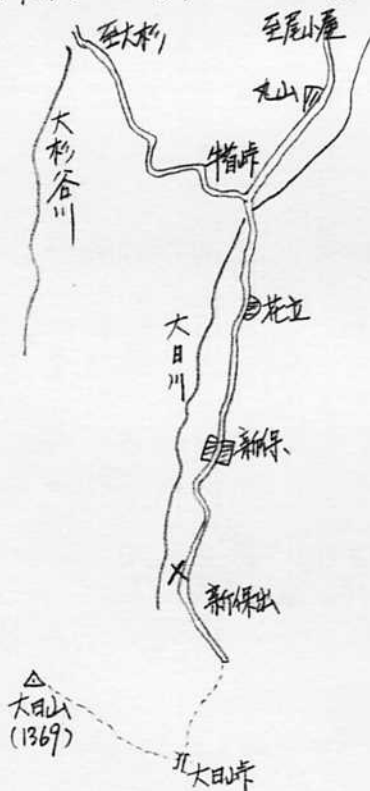
大日山には、まだ雪がたくさん残り、山麓には、ザゼンソウ、ニリンソウなどが咲き始めといった感じだ、サクラには、まだ花をつけているものが多かった。

新保出(標高約550m)で、道沿いのイボタマリ、ウラエマダラシジミ幼3令、1ex、サクラspより、メスアカミドリシジミ幼3令、4exsを得た。

ウラエマダラシジミは、偶然見つけたものだったが、メスアカは花びらの残るサクラの小さな葉に食痕を見つけてから、幼虫を捜してみると、たまたま色の幼虫の色が極立っていて見つけ易く、簡単に蛹化殻も見つかった。

帰路、辰ノ口町徳山で、ハンキヨリミドリシジミ幼20exsを採集した。また、辰ノ口町某所で、ギンラン、ギンランも採集した。

(又責: 吉村)



河内村板尾にてウラゴマダラシジミ幼を採集

若村 久貴

1983年4月17日、石川郡河内村内において未記録の *Zephyrus* を獲して、河内村板尾不動滝周辺を調査したところ、沢沿いのイボタよりウラゴマダラシジミの2令幼虫 6 exs. 真新しい孵化殻 12 exs を採集確認した。

不動滝周辺には、数多くのイボタがあり、ウラゴマダラシジミは多数生息するものと思われる。

また、春咲きの山野草がたくさんあり、キクザキイチリンソウ、カタクリ、ヤマブキ、各種スミレが咲き乱れていた。ワサビ、ユキザサ、ヒトリシズカを採取したが、野外ではフタリシズカの方が普通種で、ヒトリシズカは稀種と聞いていたが、滝つぼ周辺には、多数のヒトリシズカ（ヒトリシズカだけ）が、白い花を咲かせていた。

採集データ 1983. 4. 17 石川郡河内村板尾不動滝
ウラゴマダラシジミ 2令幼虫 (6 exs) イボタ

虫採りはVW (カーヴェー)に乗って

金子 二久

僕はカブト虫に乗って虫を採りに行きます。その車はもう11年半、14万 Km 以上乗り込んでいます。

6月24日 午後10時30分出発。北陸高速に乗って、奈良へ向かう。若草山々頂着。3時30分。薄明るくなると、柵をのり越えて入り、草をたたき出す。大仏殿の屋根が大きく見える。

鹿とモンキチョウは多かったが、ヒョウモンは一つもない。オニポイントでは採れず、オニポイントに向かう。朝露にズボンを重ね濡らしながら歩き回る。おかなか出ない。

フト、2m 位横のススキにモンキチョウより一週り大きいのがぶら下がっている。後翅の銀紋は凹型だ！ そっと、網を広げ、ヤ、！ とばかりにかぶせる。そんな必要はなかったのだ。蝶はビクビクも動かない。

オオウラギンヒョウモン否！ 時に6時10分。元気になって、その付近をたたき廻るが、出るのはモンキチョウとシヤノチョウだけ。

また、オ一のポイントに入り、陽のあたり出した所をガサガサ歩く。30分も経ったろうか。茶色い蝶が飛び出す。その飛び廻るのを目で追う。アザミに止まった。網を広げてカー杯振る。二頭目、7時30分。網の中はアザミの葉。花でガサガサだ。

その頃になって、二人組の採集者が入って来る。小生も葉をたたき続ける。凹地のむこうにヒョウモンが飛んでいる。何か少しおかし。シヤニムニ追いかける。枯木に止まったのを採る。ツマゲロヒョウモンの名。

大阪からの二人組に話を聞く。毎土曜日来ている由。ここ5年間に激減した。早は滅多に出ない。木津川は絶滅した(昨年一頭しか採れなかった)。ここは監視員が夕時頃廻って来て見つかる。"トラ。出テイ！"とビビられる由。(若草山は春と秋しか開放していない)。

しばらく出ていた太陽もかげり。いくらたたいても出て来ないので。引き上げる(8時40分)。大阪の連中も255採った。

—— 木津川ヒョウモン255。ツマゲロヒョウモン16。シヤニムニ255
ギアゲト 299

木津川の堤防を南の方から見てゆき。まさそうな所を歩き。たたく。ヒョウモンのヒの字も出て来ない。いいかげん。イヤになって(すぐイヤになるのが小生の悪い所)。時計を見るとまだ11時。

コーヒーを飲みながら考えた。フト、浜松でウラナミシヤノメのポイントがあり。少し遠いくらいだと思出し。oilを入れて東名高道を走り出す。

風が強く。100km以上ではトンネルの出口などでスッと横に振られる。ポイントに着いたのが半頃。天滝川の河原を又もやたたき出す。

出て来るのは、ベニシジミのみ。疲れているし。暑いしで。ゲンナリした頃。yphimelが出る。ブッシュに入り込んで網をかぶせる。

ヒメウラナミだ！ ヒメはいないと聞いていたが。出て来るのは皆。ヒメウラナミ。

又、いいかげんイヤになった頃。何か大きいやつが出た。止まったのをのぞきこむと。大きお腰杖紋に睨られてギョツとする。

ウラナミシヤノメの早。少し傷がついている。結果として。ウラナミシヤノメ2群。ヒメウラナミシヤノメ32群。ベニシジミ56群。

薄暗くなった道を高道に何って走り出す。走行中。高山をまわって帰ろうかと気がかわり。中津川で高道を出て松本に何って走る。

道は細いし。曲りくねっているし。大型トラックは多いしで神経がキレる。ヒョウ。木曾福島の近くでギブアップして旅館を探す。

もう夜遅くてダメ。やむなく駅のベンチで寝袋にくるまって横になる。

このあと、明け方、乞食に仲間と間違われたり、葛葉峠の下りでコンクリートミキサー車が横転し4時間も足止めをくったりしたが、26日投票時間を1時間過ぎて、7時にようやく帰宅。走行距離1200km。

しかし、高速道では120~130kmで追越し車線を走るし、トラブルは全くないし(足廻りが少々弱ってきた)VWは良い車だなあ。鹿車に上る時、僕はキッと泣くと思うよ。

女採集人

岩下 泰子

1982年6月10日、天気も良いし、そろそろセフィルスでも翔ばないものかと中西夫人と共に、森本から津幡方面、そして宝蓮山へと出かけることにした。

前日、電話で打ち合わせしたが、待ち合わせ場所が金沢駅前、ホリデイインホテルの前と決まった。

夫人とは会合以来、顔を合わせたことはなく、ホリデイインへ着くまでは、たいへん緊張していたのだが……。

ふと見ると、なにやら長い竿を片手にニコニコして立っている女性がいる。なんと、それが中西夫人であった。

彼女は人ゴミの中、ゆうゆうたる態度で、セフィルス用のつなぎ竿をかつぎ、とにかく手を振り歩いて来た。そのはつらつとした姿には、有万石スーパー、ギャルも全く顔負けといった感じであった。

そして車の中では、やはり女性ムシや同士、すっかり意気投合。彼女の明るい性格のため、人見知りする方である私も、まるでずっと以前からの知り合いであるかの様に、気軽に楽しい会話をかわすことができた。

初めに2人は、森本、中尾方面へと伺った。アカシジミでもないものかと、クダギヤコナヲをたたいてみたが、何も出て来ない。いないのか、それとも私たちには届かぬ枝の陰に隠れているのであろうか。

そのうち、だんだん省の方が疲れてくると、私たちは、もうあきらめて、場所をかえることに意見が一致した。

しかし、せっかく来たのだからと、オオヒカゲのポイントに立ち寄ることにした。頼でも見つからないかと思ったのだ。

しかし、幼虫期には、あんなに多くの姿を見せてくれた彼らは、
いったいどこだけが無事に蛹化に成功し、どこに潜んでいるのか。
こっけいな仕事で愛想を振りまいてくれたあの頃と違い、スゲの
中はひっそりとした雰囲気であった。それでも、たった1つだけ、
スゲの葉葉についている美しい蛹を見つけることができた。
ところが、それもどこでどうしたのか、途中、車の中で失ってし
まったのである。

がっかりしながら、次に倶利伽羅へ向った。ここでは、となりに
車を止めていた男性たちが、不思議そうに見ていたが、そんなもの
に気を取らねえと、右万石スーパー、ギャルヒスーパー、ママはつと
まらねえと無視して、次々に樹をたたいて回った。

しかし、ここでもやっぱりゼフィルスの姿は見られず、かわりに
ケガをしたカラスが落ちてきた。やはり、あきらめて帰ることにした。
途中、草陰にちょっと静止しているアカシジミの姿を発見したが、
すでに羽がボロボロであった。

2人は、もう採集というより、すっかりドライブ気分になり、車の
中での楽しい会話を一段とはずませながら、のんびりと今度は、宝
達山まで車を走らせた。

詩しい道もわからないまま、展望台のあたりまで登ったが、蝶の
姿はヒオドシしか見られなかった。ヒオドシは、たいへん美しいの
だが、あまり数が少ないのでネットする気になれなかった。

美しい景色を眺めながら山を下ると、小矢部の方へ出てしまった。
今日は、もう終りにしようと思道をもっすぐ引き返したが、しかし
日もかなり西に傾き、そろそろゼフィルスたちがクヌギヤコナラの樹
冠を翔が回るころではないか――

松たちももう一度と、再び森本、今度は花園方面へと足を向ける
ことにした。やはり、オレンジ色の妖精たちが高いクヌギの樹冠で
戯れていた。

しかし、クヌギの樹は大きすぎて、背の高い中西夫人でさえも肩
が合わないのである。木から木へと移動する途中が、比較的捕え易い様
であったので、そこを狙って、やっと、2頭のアカシジミを身に入れ
ることができた。

肩と腕がすっかり疲れ、あたりもすっかり薄暗くなっていた。2
人は、ようやく帰る気持ちになり、そろそろ夕食の用意も……
などと、たの息まじりに話しながら、それでも、けっこう満足した
様子で車に乗り込んだ。

中西宅に着くと、やがて中西氏が仕事から帰って来た。仕事の合
間に、ちよこつと採ったんですけど――と三角ケースのふたを開け
ながら……中を見ると、オオミドリ、ジョウザン、そしてアカシジミの入

った三角紙がドサッと出て来たのだった。——サスガ!
女性コンビは、少々 いじけてしまったが、それでもたいへん
楽しい一日であったことに十分満足し、ニッコリと笑い合っていた
のだった。

医王山にてフジミドリシジミを採卵

松田 俊郎

医王山スポーツセンターを過ぎて、しばらく行くと重山道路と菱
広峠へ行く道と二手に分かれている。
菱広峠へ何って行くと 途中に白兀山に登る道がある。この道は、
重山道路とも通じているのだが、おっすぐに登っていくと白兀山に
着くことになっている。

細くて急な道だが、がまんして登っていくと、だんだんブナがあ
らわれてくる。

フジミドリシジミの採卵できたのは、おわりに木々が繁茂している
ため、昼でもなお薄暗い所であった。こんなところは、蛾しかい
ないだろうと思われるような所であった。

なお、夏に成虫を見た菱広峠付近のブナも捜してみたが、こちら
の方は全く見つからなかった。

デー9 1982. 9. 24 採卵数 4 exs

飼育の結果、1雄が羽化している。

メスアカミドリシジミの産卵位置について

吉村 久貴

アイノミドリシジミやキリシマミドリ、レサマツミドリの産卵は、食樹である
ミズナラヤカシ類などの休眠芽に行なわれ、位置的に非常に限定し
ているのに対し、同じ *chrysozephyrus* 属であるメスアカミドリシジミは、
一口に、サクラ類の枝といっても、筆者ら採集者の目をごまかすべ
く、様々なところに産んであり、位置的に一定していない。

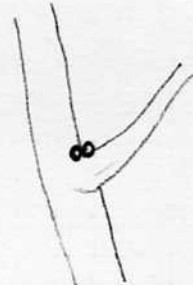
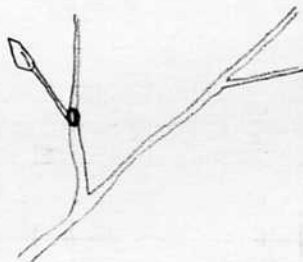
筆者の過去4年間のメスアカミドリシジミ採卵の経験より、その
様々な産卵位置をあげてみたい。

筆者は、主に金沢市医王山のヤマザクラの小木(高さ2~4m)を

対象に卵を捜しているが、大きなソメイヨシノなどより卵を見つけ易いこと、どうも小木の方が卵がついている様に思われることなどの理由による。

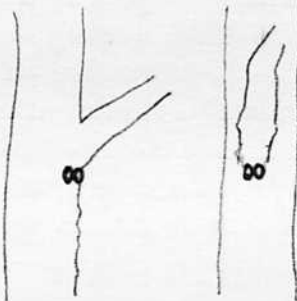
a) 細く枝分かれした先の方の細い枝

b) 太さ $0.5 \sim 1.0$ cmの分枝点の上



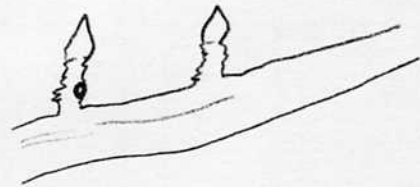
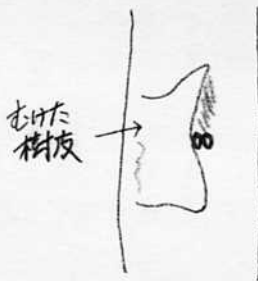
c) 太さ $0.5 \sim 1.0$ cmの分枝点の下

d) 枝の樹皮の凹凸部



e) 樹皮の少しむけたくぼみ

f) 枝から横にさかんにでた小さな分枝芽の基部



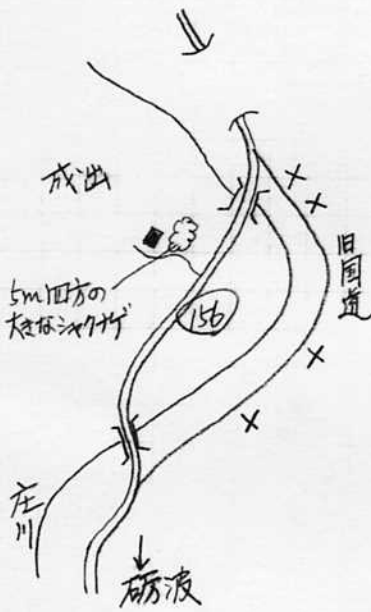
f)については、比較的大きなサクラでみられた場合であるが、b)~e)の様にやや太い(1cm位)の枝の分枝点、または、平坦な樹皮上に産卵されている場合は、1個の場合の他、2個ずつ産みつけられている場合が比較的多かった。
また樹皮上のくぼみ、凹凸傷などで卵が保持され易いことが、産卵条件の様に思われた。

〈採集地案内・5〉

富山県東砺波郡上平村成出
岐阜県大野郡白川村小谷川のギフチョウ

嵯峨井 淳郎

ワスバサイシン食のギフチョウについて前回は載せたが、上平村成出は、上平村上松尾と並び、ギフチョウを多産する。



国道156号線沿線は、道路の改修工事、拡張工事が急テンポに進捗し、年毎に地形が変わっている。(この地を訪ずれた人はよくわかると思う)

ここ成出も成出大橋の完成により、旧国道(赤舗葉)がヒリ残され、そこをネットを持って歩けば、ギフチョウや、おびただしい数のスギタニルリジミを採ることが可能である。

しかし、この地も発生時期にムラがあり、1980年春などは、いつまでも残雪が残り、(4月中旬でも好POINTは雪でスッポリ埋まっていた)何回もカラ足を踏んだ方がいるはずである。好機さえ逃さなければ、大橋間違いない。

余談ながら、成出のバス停近くに庄屋跡の様なお宅とした古い家がある。

庭には素晴らしく大きいシクナゲが植栽されているので眺めて見るとよい。

満開の時は、誠に壮観、豪華絢爛で心に和みを与えてくれる。この家の作人の話によれば、少なくとも50年は、ここに植えられているとのことで、果して植えた時より何年経ったものか計り知れない。

【シリーズ案内と書評】

第7回 趣味の山野草 '83.3月号(通巻32号 朋文社)

嵯峨井 淳郎

本号では、『ヤイしい野草図鑑』26. キケマンの仲間』が群を抜き、エゾエンゴサク、シロボウエンゴサク、ムラサキケマン、ミヤマキケマンの見分け方について解説している。
日本産パルオシウスの食草として既に理解されているものであるが、改めて写真を見直すと、ナント可憐な花であることが、18頁 専載「蝶の世界 Ⅱ」は、森島晋司氏撮影のウラギンスジヒョウモンである。

PACHINKO 狂

チヨウキチホマレ

チヨウキチホマレは、昔、真面目だったという話。チヨウキチホマレは自分のあのあつかい名前を今もってておましている。名前負けもいじょう。先祖は、苗字帯刀を許された郷土兼紳士。現在わかっているだけでも20代は続いている迷氏の出だそう。

ところで、チヨウキチホマレは、無類の博打好きである。カードはやる。麻雀はする。パチンコははじくし、しかし競馬競輪は知らない。博打を覚えたのは仕事についてから。しかも麻雀にいたっては、女房をもらってから、パチンコに至っては2人目の子供が腹に入ってからなのだ。まるで母ちゃんが悪いみたいなお表現に打ってしまふ。

トランプ（ポーカーや猫の目）で徹夜した事も何10回以上とあり、おかげでラジカセやレコードを購入したりして音楽的情緒を養わせてもらった。（クラシックやラテン物が理解できる）

カゲではウランでいる奴もいるという。レクソ真面目なボクは、ゲームに関しては差放をしない。徹底的に痛めつける。

給料日には、すかさず日頃の成果を集積して徴収にまわるといった念の入りようさ。しかも自らの小使の金を稼いでいたそのカードもある様会后、ふっつり足を洗いその後回者会談中国語講座にうつつをぬかした。仕事を休んで麻雀荘へ走ったことも……。しかもこれはポーカーのようにはゆかず、相当額の授業料を支払ったのち血暗コーを4度ばかり仕上げて（注、チヨウキチホマレは常に血暗コーをねらっている）これまたふっつりと足を洗い、今度は今花盛りの流行の電動パチンコ。しかも東京で覚えたこの孤独のゲームでいきなり「大入り」をこなし、これを機会にタンジャラ狂いになったのだ。その後「大入り」すること40回前後、一通りの電役パチンコをこなす。

現在の愛好概は「D戦タイガ」これのみ。少レ時間がかかるが、楽めることうけあい。一杯飲んだ酔杯などは必ず片断オロラ会館などで帰りのタクシードを稼いで帰る。しかし、

頸肩腕症や肺がんにはなり易い事、この上ない。長時間ネバ
 ことによっては胃腸も悪くなる。だけどこの一人の楽しみはト
 ランプや麻雀のように他人を傷つけない、つまり人間関係をス
 ーズにすることにかなり適当にストレスの解消にもなる。
 ところで、この種の機械を操る店には時々恐い小女さんがツ
 ロロするので注意。以前、野々市オーロラで金土日とろ日
 間同一台で8000円~9000円(大入り前)を毎日いただいた事があ
 ったが顔を覚えられて困ったことがあった。
 最近ではコンピューター制御機が多く、ある条件が成立すると廻
 動式電磁石が動作し、あるいは大入り可能となる。
 野々市ラスベガスはやはり大入り前でDD番1000個進出などとアウンスさ
 れたら即座に球を打つのをやめて金に替えるべし。???
 チョウチホレは奥に真面目に孤独を楽しんでいるのである。

目 次

小松市大日川上流でヌアカミドリシジミ幼を採集	-----	吉村久貴 野中勝	--- 1
河内村板尾にてウラゴマダラシジミ幼を採集	-----	吉村久貴	--- 2
虫採りはVW(ターヴェー)に乗って	-----	金子ニ久	--- 2
女採集人	-----	岩下泰子	--- 4
医王山にてフジミドリシジミを採卵	-----	松田俊郎	--- 6
ヌアカミドリシジミの産卵位置	-----	吉村久貴	--- 6
〈採集地案内〉			
南山県東砺波郡上平村成出			
岐阜県大野郡白川村小白川	のギフチョウ	-----	嵯峨井淳郎 --- 8
【シリーズ案内】			
第7回 趣味の山野草 '83.3月号(通巻32号)朋文社			
		-----	嵯峨井淳郎 --- 8
PACHINKO	チョウチホレ	... 9

巻 号 42

1983年7月1日(金)発行

発行：金沢市大場町東871-15 松井正人・百斤石蝶談会

校正・編集：吉村久貴